

平成28年度健康施策研修（公衆栄養研修会）

2017.3.16

地域包括ケアシステムの 構築・推進に関する取り組み

栄養サポートネットワーク合同会社

代表・管理栄養士 安達 美佐

地域のしくみづくりに関わり20年

- 神奈川県相模原保健所、相模原市保健所 平成8~14年
 - 個人開業栄養士として 平成10年~
 - 診療所での外来栄養食事指導
 - 在宅訪問

} **地域でのしくみ構築**
 - 国立保健医療科学院で 平成15年~
 - 公衆衛生の修士・博士課程相当の研修と研究
 - 糖尿病の自己管理教育プログラムの効果の評価
 - 食事調査票FFQW82の開発 *無料ダウンロード可
- DPH (Doctor of Public Health) 博士 (公衆衛生) 拝受

**日本公衆衛生学会認定：公衆衛生専門家として
行政・大学・民間と協同して「しくみづくり」に関わる**

- 法人設立後

平成18年~

- 栄養士が地域で活躍する場の創造
介護予防事業、診療所の外来栄養食事指導、
在宅訪問、特定保健指導、デイサービス栄養管理
- 診療所の外来栄養食事指導と在宅訪問のしくみを
標準化し、複数診療所で実施
- 専門職研修会の対応
医師、ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー等

食事や栄養のポイントを多職種で共有

さがみ居宅医療・介護研究会

相模原町田地区介護医療圏インフラ整備コンソーシアム

神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会

相模原市内でのヘルスケアの取り組み

人口：721,104人 高齢化率23.1%（H27） * 全国26.0%

市内の高齢者全体

要介護認定者

1.8万人

第1号被保険者の
11.1%（H26）

全国

17.9%（H26）

〈在宅訪問〉

2名の栄養士で
年間40名程度
（新規依頼）

必要な方の0.7%

要介護者の1/3が
糖尿病、低栄養、
嚥下障害等で栄養
介入が必要と仮定

〈テイサービ
スでの栄養
管理〉

市内2か所
栄養改善加算

1. 介護予防事業（高齢者支援センター主催）

29センターのうち22センター担当（75%）

1回1.5~2時間 参加者10~50名程度

内容：介護予防の6領域と主菜摂取の重要性

（1）料理カード（2）試食（3）調理実習

2. 公民館の文化事業

1回30~100名程度

介護予防（食生活を中心に）年1~2回

3. 市民活動

『生き生きシニアのための地域活動補助金事業』

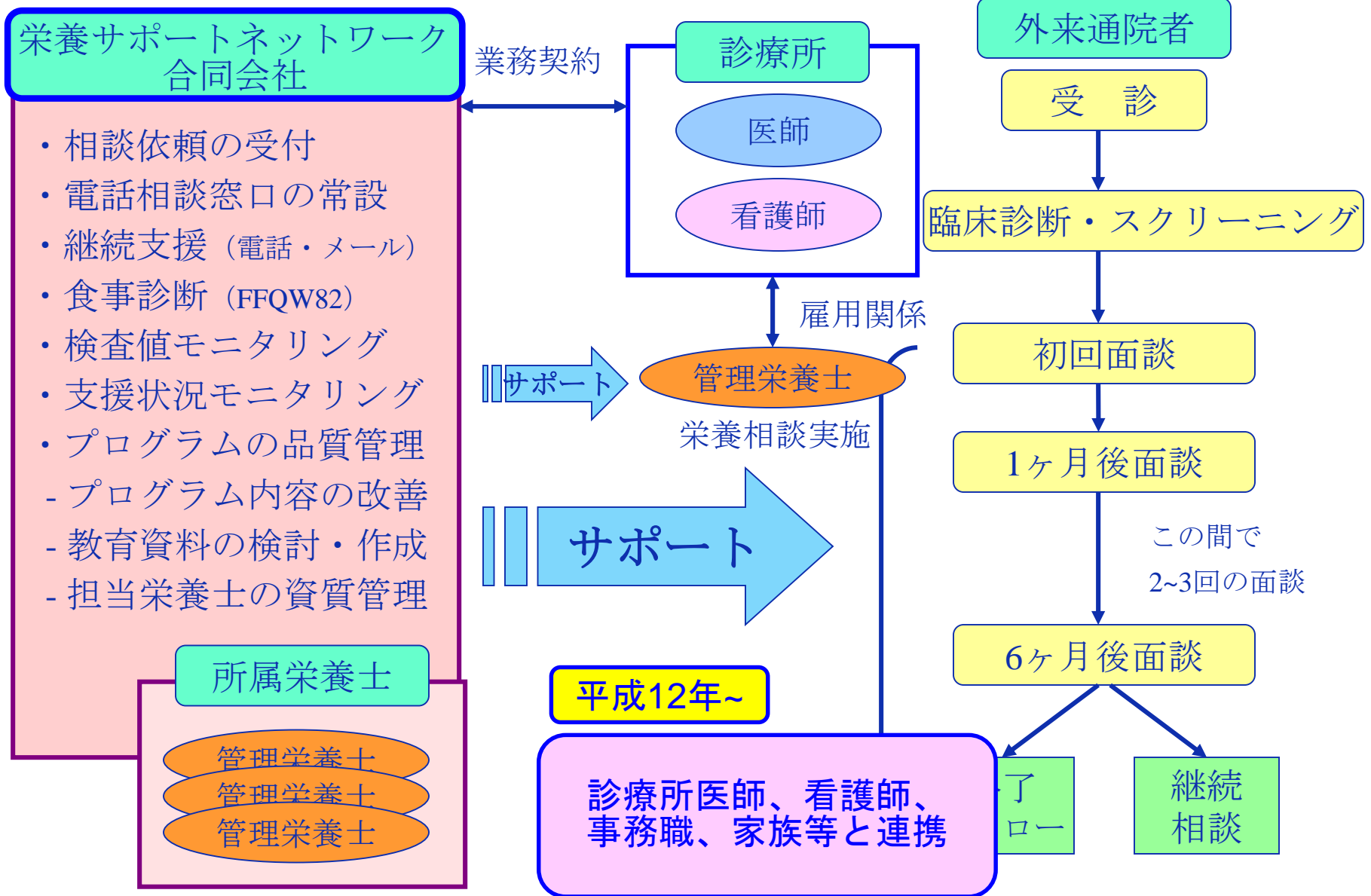
12回コースのうち1回程度「栄養講座」年2~3回

4. 食事とお酒を前向きに楽しむ会 年4回

5. 配食・弁当の監修 地域の弁当屋

6. 診療所での外来栄養食事指導 6診療所

診療所での継続型栄養相談システム



地域包括ケアシステムで 「栄養士・管理栄養士」は どんな役割を担うのか？

介護予防

介護重度化予防

疾病重度化予防

病院
介護老人保健施設
介護老人福祉施設
デイサービス

診療所 外来栄養食事指導
在宅訪問
地域包括支援センター
薬局
地域の弁当屋・飲食店
高齢者支援関連組織 等

誰が整備するのか！

- 栄養ケア・ステーション？
- 個人の栄養士 or 管理栄養士？
- 病院や老健施設の管理栄養士？
- 行政？
- 健康や福祉のNPO団体？



いよいよやらなきゃ
間に合わない！！

これからの在宅訪問は 1人の管理栄養士が複数の診療所を受け持つ

相模原市（H18~） + 町田市（H26~）

20年間で3名の管理栄養士で約30診療所で
在宅訪問を実施してきた

ケアマネ、診療所、訪問看護師から訪問依頼
管理栄養士自ら在宅訪問を導入するしくみを
整備し、円滑な導入を図る

- 1) 医師へ導入説明（15分以内に全容が見える）
- 2) ケアマネに導入手順を案内（A4用紙1枚）

地域を支えるチームを作るためには

答えは簡単です！

地域のケアサービスをつなぐことができる
コーディネイターの存在

実はどの地域にも
専任的な人材が
いない

要介護者のみならず

健康増進の対象者へのサービスをつなぐ

コーディネイターが必要

専門職でなくてもよい・業者でも個人でも可能

コーディネイターの資質

マネジメント（他職種・異業種との連携も含む）、
経済観念、顧客主義を理解し、点と点をつなげる

地域のコーディネイトは 経済活動の中でこそ発展する

経済活動とは

経済学用語のひとつ

人間の社会生活において、金銭や物資の交換を行う
ということによって生活を成り立たせていくという部分
コーディネイターが

地域ケアに関するコンサルタント業務やサービス提供を
行い（業者でも個人でも専任で行うことが必須）

その対価を地域ケアを実現したい依頼者からの報酬
として循環させるしくみ中で発展する

その成果は社会に明確に還元されなければならない
（成果を評価する指標はあらかじめ設定されるべき）

この考えが理解・実践できないと地域包括ケアシステムは構築できない！

在宅ヘルスケアシステムに関わる

管理栄養士の人材育成は必須

1. 利用者が納得する成果を出すことができる
2. 自らしくみを作り、説明することができる
3. 他職種をつなぐマネジメント能力がある
4. 生活の中でアイデアを考えられる
5. 自分が行ったことを評価できる

臨床知識や継続的なフォロー・評価体制がないままに栄養介入するのは大問題！

栄養士以外の職種に研修会 低栄養の発見とその対策

- 医師
- ケアマネジャー
- 訪問看護師
- ヘルパー
- 薬剤師
- デイサービスやグループホームのスタッフ

研修内容

1. 低栄養になると何が悪いか？
2. 低栄養の見分け方
3. 低栄養の予防・改善の食事
 - 1) 1日3食
 - 2) 毎食におかず
 - 3) 介護予防の10食品

さらに民間・一般人への
働きかけ

弁当屋、自治会、
フィットネスクラブ等

“人を想う”

地域の中にどんな人がいて
どんな思いで
何をしているのか？

